

## 平成31年度予算執行方針

### 1 予算の概要

次の100年への足がかりとなる本年度の予算は、予算編成の指針として策定した「中期財政計画」を踏まえ、健全な財政運営を堅持しつつ、将来を担う子どもたちをはじめ、市民の誰もが活躍するための「人づくり」と夢と希望が持てる「まちづくり」に積極的に投資する予算としたところである。

また、アクションプランにおいて喫緊の課題とした「子どもとその家庭への支援」「災害への備え」について、特に重点を置き、多くの関連事業を計上するとともに、平成30年3月に国の認定を受けた「中心市街地活性化基本計画」に掲げたソフト・ハード全ての事業を予算化した。

### 2 予算執行の考え方

本年度は、中核市として5年目を迎え、移行により拡大した権限のより一層の活用と新たな発想で独自事業を進めるとともに、東京2020大会の開催まで500日を切ったことから、全市を挙げて機運を盛り上げるよう努めなければならない。そこで、予算計上した事業について、時機を逸することなく着実に執行するとともに、複合的な施策の効果を生み出す工夫を凝らして取り組むこととする。

また、本年度は新たに公共施設再編を契機として、地域の課題を共有し、解決につながる「地域づくり」を推進するための体制を整備したところである。この取組は担当所管のみで進めるものではなく、全ての事業執行にあたり、将来を見据えた地域づくりの視点を持ち、より効果的な執行となるよう市内の情報共有を図ることとする。

なお、持続可能で成熟した都市を目指し、未来への投資を続けていくためには、安定的で健全な財政運営が不可欠であることは言うまでもなく、歳入歳出改革の断行と費用対効果を意識した事業執行を徹底する。

以上のことを踏まえ、次に定める基本方針に従い、予算執行にあたること。

## 基本方針

- 1 「八王子ビジョン2022」の都市像の実現に向け、予算に計上した各事業の進行管理を徹底すること。事業実施に支障がない場合は、事業効果や経済効果を市民が早期に実感できるよう、迅速かつ着実に実施する一方、期待する効果を得ることが困難と判断した場合には、他の方策を検討し、市民の理解を得るよう努めること。
- 2 分野・部門を越えた庁内の連携強化を図ることで、一つの事業が複数の施策の展開に有効に機能するよう構築するとともに、シティプロモーションの視点から効果的な情報発信を行うことで、市民が事業効果を実感できるよう、最も効率的で最大の効果が得られる予算執行に努めること。
- 3 歳入においては、国や東京都の動向を注視し、最新の情報を捕捉することで、予算に計上した歳入を確実に確保することはもとより、予算に計上していない新たな歳入の確保など、増収に向けて積極的に取り組むこと。
- 4 予算審議における議会からの意見・要望については、速やかに検証し、平成31年度の執行、あるいは今後の予算編成において適切に対応すること。
- 5 平成30年度に策定した「補助金制度見直し方針」に基づき、有効性・公平性・適正性の3つの観点から評価を行い、より効果的な事業となるよう見直しを行うこと。
- 6 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」計画期間の最終年度として、進捗状況を分析・検証し、目標を達成するよう事業を展開すること。